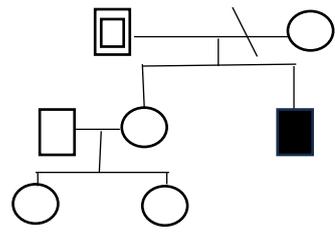


令和5年11月19日（日） アシストジャパンデイサービスセンター7号館にて
リハビリ検討会を行いました。

高知市在住 82歳：男性 キーパーソン：娘様
住居:マンション9階、エレベーター有、段差スロープ
現病歴：脳梗塞…令和5年2月11日 発症
デイサービス週3回利用 訪問マッサージ週2回利用



- 〔主訴〕 痛みが強く、思うように動けない。
- 〔ニーズ〕 背広を着て、杖歩行で、以前のように会社に行きたい。
- 〔困っている事〕 右手が痛い。動かし辛い。車椅子から立ち辛い。

～写真評価～



①歩行



②運動療法・体幹



③上肢・下肢



④頸部

- ①左上肢介助。右上肢の痛みがある為、腋窩介助要する。
- ②腰部の痛み、恥骨部は特に右側の腹筋が短縮も緩む。
- ③上肢、下肢連動した動きは、右肩甲骨内側、上肢の痛みが軽減する。
腰部・下肢の緊張も緩む。
- ④頸部を牽引し、アクティブな動きが見られる。



⑤杖歩行

⑤杖歩行では、顔を上げ背中も伸びる。痛みの訴えもなく歩行される。
本人様より「楽に立てれた。」「楽に杖で歩けた。」と、笑顔で話されていました。

～まとめ～

脳梗塞を発症され、アシストジャパンを利用されるまで、車椅子座位の時間が長く、半年程で、肩や腰、上肢の痛みが強くなったことで作られた病態と思われる。リハビリ検討会では、右上肢の引き込みは、強くなく、体の硬さや腹筋の短縮が見られた。

歩行時の右下肢の伸びる時、肋骨弓の落ち込み等に注目して運動療法を行った。右肩甲骨と上肢が活性化すると、腰部や足底部の緊張も緩み、上肢と下肢のアクティブな動きも見られだした。

同時性収縮により、できる動きが出来なかったと考えられる。

ホットパックを利用し、肩から手先の痛みを和らげ、ご本人様の相槌で頸部の動きを確認し、自主トレを促していく。そして、痛みのない範囲で馬蹄型歩行を継続し、杖歩行に繋げる。

今回、痛みのない状態を作る事で、杖歩行から車椅子への移乗の際、自発的に右上肢を伸ばして、車椅子を握り、座られた。このような場面や、動ける動作を増やしていけるのではないかと考えられる。